

インドクミンク

冠羽

頭のパヤパヤは云々
いる羽。
ヒナのころからある。
オス×ス両方にお

体の色

オスは青×スは緑
オスは青だが、
成鳥になる前日。
×スのおなま。



かさり羽

オスは自分の大きさを
示すためにアヒールする
ため かさり羽を
開き、×スにみせびやうする。

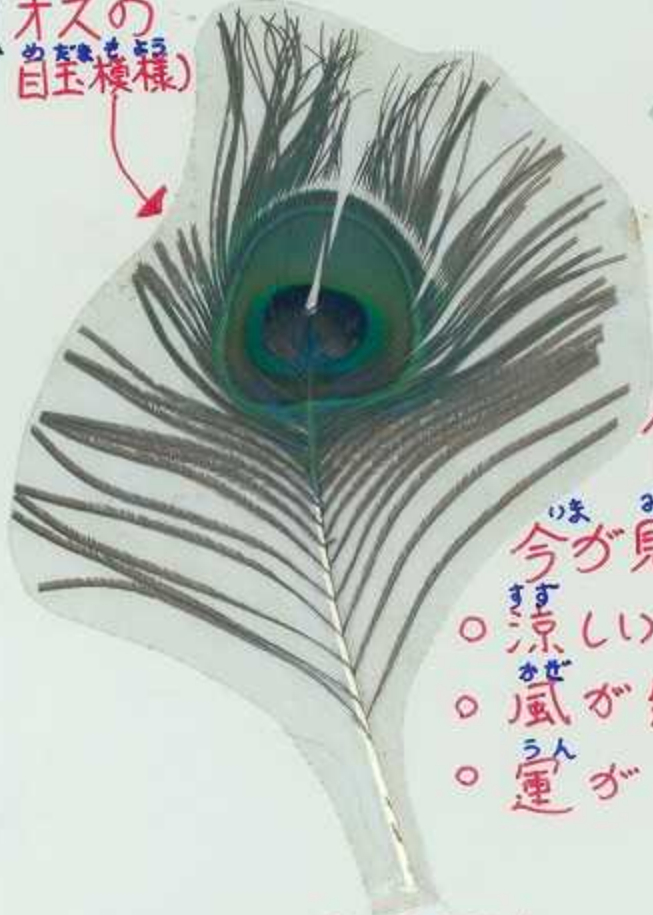
ケツ

足のうしろのケツ
攻撃や防衛に利用。
とびかかると攻撃。

インドクジャク

ウォッチング

(オスの
めだまもよう
白玉模様)



かざ はね
飾り羽

いま み
今が見れるチャンスです。

- 涼しい時。
- 風が無い時。
- 運が良い時。

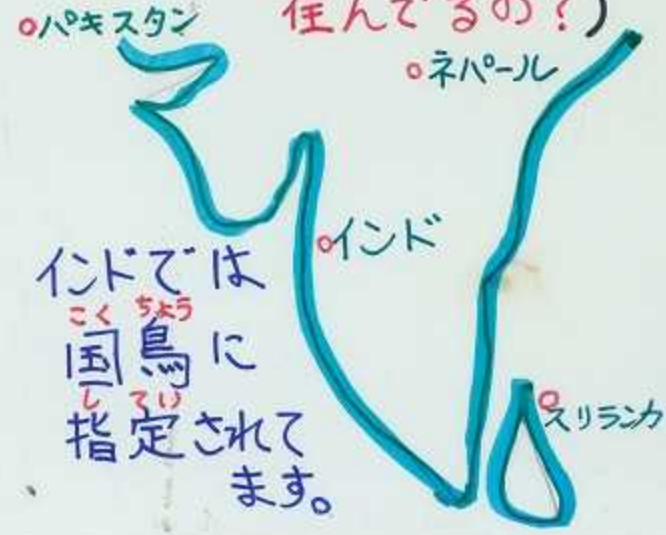
メスの鳴き声は……え、て感じ。
ビックリします。



(メスの
とくちょう
特徴)

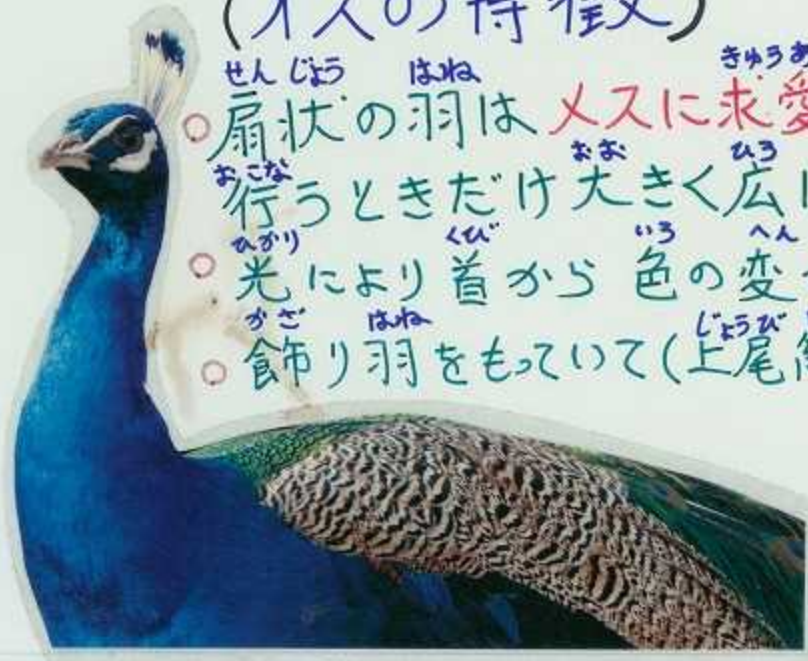
- 首が青・緑です。
- 体は茶色です。

(クジャクってどこに
住んでるの?)



(オスの特徴)

- 扇状の羽はメスに求愛行動を
行うときだけ大きく広がります。
- 光により首から色の变化・七変化。
- 飾り羽をもっていて(上尾筒) 目玉模様があります。
(110~160個)



(夜はどこで寝るの)

- 木の上ののぼって
眠りにつきます。
- 動物園クジャク舎
では小屋の上。

- オス同士ケンカします。
- 鳴き声は「ネ」に似ています。

クジャクの躑躅爪(ケツメ)に注意

クジャクは、その美しさから危険性が無いと思われがちですが、実際は、もうでもありません。

実は、気性がけ、こゝろ荒く、繁殖期になるとオスは、攻撃的になります。

そして、その時主な武器になるのが躑躅爪です。

躑躅爪は、オスの脚の後方に独立気味に生えていて、かなり鋭いのですが、彼らはこれを攻撃の手段として利用します。

飼育員に対しても、飛びかかって躑躅爪で攻撃してきます。油断していると、かなりの裂傷を負うことにもなります。なので、繁殖期のオスには、なるべく近づかないように作業していただきます。



繁殖期には美しい姿になりますが...



ケツメで攻撃してきます...

クジャクの子育ては

安全安心が一番。



卵を温める装置に
卵3個入れて約25日で
孵化した写真です



←3羽生れた
約14日目

↑令和元年7月28日
3羽生まれました。

オスクジャクは春先にメスクジャクにアールほくりします。メスがオスの求愛を受け入れると互いの嘴をつきあう行動がみられます。

繁殖期は3月～6月下旬までで繁殖期をすぎるとメスは茂みの中に掘った巣に卵を産みます。約1か月間抱卵します。一回で3～5個の卵を産みます。

卵をおおう殻の色は淡黄色しています。

母親役のメスクジャク。



このメスは常に2羽のヒナによりそい、声をかけながら展示場内を歩きながら展示場内にあるいろいろな物を見せていました。

↑令和元年8月10日に
自然孵化した2羽です。

※生まれた5羽は外敵も殆どいない環境になりましたので日増に大きく育っています。

この2羽は、クジャク展示場内で母親役のメスクジャクが卵2個一生懸命温めてくれたので無事2羽誕生しました。



↑小さくても冠が刺まっています。

↑2番目に生れたヒナです。迷子になるのが怖かったです。

クジャクのメスは、 なぜ美しい羽のオスを選ぶのか？

有力な3つの説

・魅力的なだけ仮説

羽の美しいオスがただ単に魅力的に見える。子孫を未来に残すには息子も魅力的なほうが良い。よってメスは美しい羽を持つオスを選ぶ。

・健康な子供仮説

羽の美しいオスは健康なはずである。寄生虫がついたり病気であれば羽が汚くなってしまう。メスは健康な子孫を残すため美しい羽を持つオスを選ぶ。

・ハンディキャップ仮説

大きくて重い羽を持つオスは天敵から逃げづらく他個体に比べハンディを背負っている。逆に言うとそのハンディを背負っても生き延びているオスは、それだけ生存能力が高いことを意味する。メスは生存能力の高い子孫を残すために大きく美しい羽を持つオスを選ぶ。

むずかしく考えすぎじゃない？

